

---

2017.8.29 エコチル調査メールマガジン 第 46 号

---

みなさま、こんにちは。いつも応援ありがとうございます！  
エコチル調査メールマガジン 第 46 号をお届けします。

<目次>

1. おしえて！エコチル先生！  
～甲信ユニットセンター事務局長・小田和早苗さんインタビュー～
2. エコチル調査からのお知らせ

- 
1. おしえて！エコチル先生！  
～甲信ユニットセンター事務局長・小田和早苗さんインタビュー～
- 

エコチル調査は、日本全国、実に多くの  
医療機関や研究所の方が関わり、調査研究を進めています。

今回はエコチル調査に深く関わってらっしゃる方のお一人、  
小田和早苗さんに、お仕事の内容や体験談などをお伺いしました！

-----  
【Q】 小田和さんの、普段のお仕事はどのようなことですか？

【A】 甲信ユニットセンターの事務局長 = 何でも屋さん！  
参加者さんたちとの信頼関係づくりも、大切にしています。

山梨大学と信州大学でつくるエコチル調査の  
「甲信ユニットセンター」で、事務局長を担当しています。  
職場は山梨大学にあり、主に山梨県内の参加者さんと  
そのご家族約 4,600 組のエコチル調査業務を、  
19 名のスタッフとともに実施しています。

事務局長の仕事は、まさに「何でも屋さん」です。  
毎日郵送で届く質問票や、一部の方にご協力いただいている

詳細調査のデータを受領したり、調査の進行を管理するための記録・集計作業を行ったりしています。

予算の管理からスタッフのマネジメント業務、協力関係機関との渉外業務、コアセンターや全国のユニットセンターとの連携など、仕事の内容は多岐にわたっています。

また、エコチル調査はお子さんが13歳になるまでの長期にわたり、健康状態や成長発達の様子を追跡する調査なので、1人でも多くのお子さんに継続してご協力いただくことが何より重要です。

参加者さんたちとの間に信頼関係を結ぶために、調査の進捗を伝えるニューズレターを発行したり、コミュニケーションを深めるためのイベントを開催したりすることも大切な仕事になっています。

---

【Q】お仕事の中で、これは貴重・・・！という体験談はありますか？

【A】北海道から沖縄まで、全国の方と交流できるのが嬉しい！

詳細調査が始まってすぐの冬に、北海道の北見サブユニットセンターを訪問し、参加者さんのお宅の環境測定に同行させていただいたことがありました。エコチル調査の最北地域では、室外の化学物質を測定する機器が吹雪に飛ばされないように、リサーチコーディネーターさんたちがお手製の雪よけを作って、大雪の中で機器の設置作業を進めていました。

また、夏休みにプライベートで訪れた宮古島では、マリンスポーツのインストラクターさんが、エコチル調査に参加者しているパパさんだった、ということもありました。

エコチル調査は、北海道から沖縄・宮古島まで、全国に15のユニットセンターがあり、それぞれの地域性を生かしながら調査を実施しています。全国にいるたくさんの仲間と交流を深め、それぞれのユニットの仕組みや工夫点などを学ぶ機会は、とても貴重な体験になっています。

---

【Q】エコチル調査の中で特にここが気になる！という項目は？

【A】 私が花粉症なので・・・山梨県と花粉症の関連が、気になる！

エコチル調査は環境中の化学物質が、子どもの健康に  
どんな影響を与えているかを明らかにすることが目的です。  
中でも近年増加傾向にある、子どもの発達障害やアレルギー疾患などの  
関連について、解明されることが期待されています。

山梨県は「スギ花粉症」の患者が多く、エコチル調査で  
妊婦さんの血液検査をしたところ、スギ花粉に対する抗体を持つ人  
(スギ花粉症になりやすい人)の割合が、全国 15 ユニットの中で  
最も高い、という結果が出ました。  
また、2 歳と 3 歳の質問票で「子どもが花粉症になったことがある」と回答した  
人の割合も、全国のユニットの中で群を抜いて高い結果となりました。

私もひどい花粉症なので、山梨の環境とスギ花粉症との関連が  
明らかになることに、大きな期待を寄せています。

-----  
【Q】 エコチル調査の魅力を、一言で伝えるとしたら？

【A】 未来の子どもたちのために、参加者とスタッフみんなで挑戦中！  
そこが魅力です。

10 万組の親子を胎児期から 13 年間追跡するという  
大規模で長期的な調査は、日本では前例のないプロジェクトです。  
お手本がない分、自分たちで方法を考え、常に試行錯誤しながら  
作り上げていかなければならず、しんどい作業が続くことも少なくありません。

しかしエコチル調査には、「未来の子どもたちが、安心して  
健やかに成長できる環境をプレゼントする」という明確な目的があります。  
目的を達成させるために、全国の参加者さんたちと  
私たち調査研究スタッフが協力して挑戦し続けていること。  
それがエコチル調査の魅力、だと思います。

-----  
小田和さん、ありがとうございました！

☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆

サポーターの皆さまへのお願い

あなたの身近な人に、エコチル調査をお知らせいただけませんか？

10万組もの方々に参加を続けていただくためには、  
ひとりでも多くの人に、エコチル調査を知っていただく  
必要があります。

子どもたちのすこやかな未来のために、  
ぜひともご協力をお願いします。

☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆

○エコチル調査ホームページ

<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/index.html>

○メールマガジンのバックナンバーはこちら

<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/mailmagazine/backnumber.html>

○メールマガジンの配信停止

下のアドレスへ空メール(タイトル、本文未入力)を送信してください。

[ecochildteishi@ecochil.go.jp](mailto:ecochildteishi@ecochil.go.jp)

○配信先メールアドレスの変更をご希望の方は、  
新しいメールアドレスで再度サポーター登録をお願いします。

<https://www.env.go.jp/chemi/ceh/entry/index.html>

---

発行／編集

環境省 大臣官房 環境保健部 環境安全課 環境リスク評価室  
エコチル調査担当

---

※このメールアドレスは配信専用です。